

I 実践

1 啓発活動

(1) 人権コーナーの設置

人権とは何かの説明や児童の作品を掲示した。

(2) 人権教育ビデオの活用と人権メッセージの作成

人権教育に関するビデオを活用し、人権メッセージを作成した。全学年から素晴らしいメッセージが寄せられた。寄せられたメッセージは人権啓発推進センター主催の人権メッセージに応募するとともに、人権コーナーに順次掲示し、啓発を図っている。



人権メッセージ

2 異学年交流

1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生が、次のようなねらいをもって異学年交流給食会を実施した。

- ・1学期の各教室の経験を生かし、ランチルームで児童相互の協力で食事環境を整え、会食することにより、食事を通じたマナーや人間関係調整力を育てる。
- ・交流給食を設定し、上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生のよい姿を見ながらきょうだい学級活動の場とする。
- ・異学年交流の楽しさを味わい、他の活動でも児童が、きょうだい学級で活動しようとする意欲を高める。

3 体験学習

(1) 高齢者疑似体験・点字体験・車椅子体験・ブラインド体験

総合的な学習の時間における体験活動として、体験を実施した。

- ・ブラインド体験（アイマスクを付けて目が見えない体験をする。コースを歩く。）
- ・高齢者疑似体験（体験セットを知る。コースを歩く。）
- ・点字体験（点字の打ち方を知る。点字を読む。）
- ・車椅子体験（車椅子の使い方を知る。グループで体験をする。）

車椅子体験



(2) ふれあい会食会

地域のお年寄りと一緒にゲームや会食を実施した。



(3) 環境ボランティア

全学年で、学校や通学路、地域の公園の除草や空き缶拾いなどの清掃を実施した。「みんなで利用する場所を大切にする心」を育てるとともに、「奉仕の心」を育てる活動を行っている。

4 その他の活動

青少年赤十字活動 募金活動 あいさつ運動



5 成果

- (1) 児童の発達段階に応じて、人権教育ビデオを活用し、人権メッセージを作成したことで、自分の生活を振り返りながら、人権について考えることができた。一人ひとりがいじめや命について言葉にして表すことができた。
- (2) きょうだい学級での交流では、上級生が下級生に対する責任感が育っている。特に、6年生の成長が見られた。
- (3) 体験学習では、高齢者疑似体験や車いす体験等を通して、体の不自由な人たちや高齢者の人たちの気持ちや苦勞を知る機会となった。地域のお年寄りとの会食では、ゲームや会食を通して、交流が深まり、普段、接することの少ない方たちへの接し方を学ぶことができた。また、お年寄りの方々にも喜んでもらえ、福祉の集いなどへの地域との交流が生まれている。

II 今後の課題

- (1) 人権資料集等を活用した研修会を実施し、教職員、保護者の人権に対する理解を深めていきたい。
- (2) 人権教育の計画的、継続的に実践をしていきたい。
- (3) 人権教育のための資料の開発と環境の整備をしていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

